様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 22 年 5 月 26 日現在

研究種目：基盤研究（A）
研究期間：2006～2009
課題番号：18202027
研究課題名（和文）　日本におけるエスニック地理学の構築のための理論的および実証的研究

研究課題名（英文）　A theoretical and verificational study on formation of ethnic geography in Japan

研究代表者
山下　清海（YAMASHITA KIYOMI）
筑波大学・大学院生命環境科学研究科・教授
研究者番号：００１６６６６２

研究成果の概要（和文）：

本研究では，日本におけるエスニック地理学の構築を目指して，エスニック集団に関する理論的研究および実証的研究を行うことを目的とした。このため，国内外の先行研究を広範に検討しながら，エスニック地理学の理論的研究を進めるとともに，日本および海外のエスニック社会を対象にインテンシブなフィールドワークを実施した。その成果は，山下清海編『エスニック・ワールド』（明石書店，2008 年）として公刊し，2 冊目の書籍の出版計画も進行中である。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this study is to aim at the construction of ethnic geography in Japan researching ethnic groups theoretical and empirically. Therefore, the theoretical researches of ethnic geography are advanced while widely examining domestic and foreign previous studies. Intensive fieldworks on ethnic communities in Japan and overseas were done at the same time. The result was published as Yamashita, K. ed. *Ethnic World*, by Akashi Shoten in 2008. The publication plan of the second book is progressing,.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００６年度	5,400,000	1,620,000	7,020,000
２００７年度	5,000,000	1,500,000	6,500,000
２００８年度	4,600,000	1,380,000	5,980,000
２００９年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
年度			
総　計	19,100,000	5,730,000	24,830,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：人文地理学・人文地理学

キーワード：エスニック地理学　文化地理学　民族　人種　移民　エスニシティ

１．研究開始当初の背景

日本においても，エスニック集団に関する社会的関心は非常に高まっている中で，エスニック地理学全般に関するテキストや専門書はほとんど存在しなかった。そこで，本研究組織のメンバーは，日本地理学会の「移民・移住とエスニシティ研究グループ」を結成し，研究集会を開催し，メーリングリストの運用により，研究情報の交換を行ってきた。これらの活動の中から，今回の企画が生まれた。

これまでの研究成果を再検討し，エスニック集団に関する研究を飛躍的に発展させていくために，エスニック集団に関する研究をリードしている研究者を組織して，日本のエスニック地理学の構築を目指して，本研究の計画が立案された。

２．研究の目的

本研究では，日本におけるエスニック地理学の構築を目指して，エスニック集団に関する理論的研究および実証的研究をおこなうことを目的とした。

具体的には，以下の４点に重点を置いて研究を進めることにした。

(1) エスニック地理学の研究視点，概念，研究方法の明確化

(2) エスニック集団のホスト社会への適応パターンの解明

(3) エスニックタウンの形成過程・景観・機能の究明

(4) グローバルな視点からの日本国内のエスニック集団の特色・位置付けの明確化

３．研究の方法

まず，国内外のエスニック地理学に関する先行研究を参考にしながら，エスニック地理学の理論的研究を進めることにした。

次に，日本および海外においてインテンシブなフィールドワークを実施し，実証的研究の成果を蓄積しながら，エスニック地理学の理論的発展を目指すという方法をとった。

本研究組織は計10名からなるが，それぞれのメンバーは，以下のような役割を分担した。

(1)理論的研究

エスニック地理学の研究展望　（千葉立也）

エスニシティ概念のエスニック地理学への導入に関する検討　（杉浦　直）

エスニック集団のホスト社会への適応戦略の理論化　（矢ヶ崎典隆）

エスニック集団のすみわけ（セグリゲーション）およびエスニックタウンに関する理論的考察　（山下清海）

エスニック集団の文化継承に関する理論的考察　（椿　真智子）

(2)実証的研究

〈海外〉

世界各地における華人社会とチャイナタウンの比較研究　（山下清海）

アメリカ合衆国におけるエスニックタウンの構造と変容　（杉浦　直）

アメリカ合衆国における多民族・多文化社会の地域生態学的考察　（矢ヶ崎典隆）

ハワイおよびブラジルにおける日系人の職業・団体活動の比較考察　（飯田耕二郎）

スペイン・バスク地方におけるバスク人のエスニシティの再構築　（石井久生）

ヨーロッパにおけるロマ民族（ジプシー）の社会経済的変容　（加賀美雅弘）

ヨーロッパにおけるムスリム系コミュニティの変容過程　（大島規江）

アメリカ合衆国･カナダにおける日系コミュニティの比較考察　（椿　真智子）

〈国内〉

日本における定住外国人（コリアン・ブラジル人・インドシナ難民など）のコミュニティ形成　（千葉立也）

日本における華人社会・チャイナタウンの変容　（山下清海）

東京における大久保エスニックタウンおよび池袋チャイナタウンの形成　（山下清海）

在日インド人社会の変容　（澤　宗則）

４．研究成果

本研究は，2006 年度に開始して以来，各メンバーは，海外および国内において，各地のエスニック社会に関する現地調査を実施するとともに，関連資料を収集してきた。また，エスニック地理学の実証的研究の成果を学会で発表するとともに，一部は論文・図書として公刊した。

山下は海外（アメリカ・インド・ロシア・ミャンマーなど）および国内のエスニック社会，特に華人社会について調査を行った。日系人に関しては，飯田がブラジルやハワイにおいて，椿がカナダにおいて実証的な研究を行った。エスニック地理学の理論的考察については，杉浦が成果をまとめ，同時にアメリカやイギリスで調査を行った。千葉は，アイヌ社会に関する考察を実施し，あわせてエスニック地理学の理論的研究を進めた。一方，ヨーロッパについては，加賀美がロマ人について，石井がスペインのバスク地方について，大島がオランダのムスリムについて，それぞれ現地調査を続けた。澤はインドおよび日本国内において，インド人社会に関する実証的および理論的な考察を深めた。

定期的に研究集会を開催し，各メンバーが

研究の成果を発表し，意見交換を行ってきた。これにより，本研究に対する共通理解が深まった。その結果，本研究メンバーが中心となって，2008 年 4 月に，『エスニック・ワールド―世界と日本のエスニック社会』（明石書店）を刊行することができた。本書は，多くの学会誌に書評が掲載され，日本におけるエスニック地理学の発展に大きく寄与するものとして，高い評価を受けることができた。

このほか，各メンバーは，研究分担テーマに積極的に取り組み，研究の成果の一部は，すでに多くの図書，論文等として公刊されている。また，学会においても，本研究のメンバーの活動は，エスニック地理学への関心を高めるとともに，若い研究者の研究に大きな刺激を与え，後継の研究者の育成にも貢献することができた。

５．主な発表論文等

（研究代表者，研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 21 件）

①矢ケ崎典隆：書籍の出版動向からみた現代日本の国際結婚．東京学芸大学紀要人文社会科学系II，61，79-101，2010 年．査読無

②加賀美雅弘：モータリゼーション以前のロサンゼルスの市街地―20 世紀初頭の旅行ガイドブックを用いた把握．東京学芸大学人文社会科学系Ⅱ，61，47-59．2010 年．査読無

③澤　宗則：グローバル経済下のインドにおける空間の再編成－脱領域化と再領域化に着目して．人文地理，62-2，2010 年，132-153．査読有

④石井久生：バスク語地名の復活にみるボーダーランドの多義性とローカル・イニシアティブ．共立国際研究，27，1-25，2010 年．査読無

⑤山下清海：インドの華人社会とチャイナタウン－コルカタを中心に－．地理空間，第 2-1，32-50，2009 年．査読有

⑥飯田耕二郎：移民の魁・星名謙一郎のブラジル時代．大阪商業大学論集，第 151・152 号，2009 年，437-451．査読無

⑦飯田耕二郎：ホノルルにおける戦前の日本人漁業．大阪商業大学商業史博物館紀要，10，173-184，2009 年．査読無

⑧飯田耕二郎：サンバ（ブラジル文化）と阿波踊り（日本文化）―ブラジル日本人移民 100 周年記念式典に参加して思ったこと―．Milepost（大阪商業大学比較地域研究所），23，1-4，2009 年．査読無

⑨杉浦　直・小田隆史：エスニック都市空間における場所をめぐる葛藤―サンフランシスコ・ジャパンタウンの一事例から―．季刊地理学，61-3，157-177，2009 年．査読有

⑩澤　宗則・南埜　猛：グローバルシティ・東京におけるインド人集住地の形成－東京都江戸川区西葛西を事例に．国立民族学博物館調査報告，33，41-58，2009 年．査読有

⑪大島規江：オランダの国土政策と都市．地理，645，28-35，2009 年．査読無，

⑫杉浦　直：エスニシティ生成の地理的諸類型とエスニック地理学の主題．地理科学，63，260-272，2008 年，査読有

⑬飯田耕二郎：ブラジルへの戦後花嫁移住―日本力行会「南十字会」を事例として―．大阪商業大学論集，150，101-113，2008 年．査読無

⑭矢ケ崎典隆：南北アメリカ研究と文化地理学―３つの経済文化地域の設定と地域変化に関する試論―．地理空間，1，1-31，2008 年．査読有

⑮山下清海：ブラジル・サンパウロ－東洋街の変容と中国新移民の増加－．華僑華人研究，4，81-98，2007 年．査読有

⑯山下清海：第二次世界大戦後における東京在留中国人の人口変化．人文地理学研究，31，97-113，2007 年．査読無

⑰石井久生：境界地域における地域の制度化とバスク語話者―エリオシャ・アラバラ郡の事例―．共立国際文化，24，31-56，2007年．査読無

⑱杉浦　直：シアトルにおける日系教会の変化・動向と移民社会．アルテス・リベラレス（岩手大学人文社会科学部紀要），78，73-88，2006年，査読無

⑲矢ケ崎典隆：アメリカ合衆国の地域性と地域区分．新地理，54-3，15-32，2006 年．査読有

⑳加賀美雅弘：中央ヨーロッパとEU拡大―地域統合が直面する問題とは．地理月報，2，6-8，2006年．査読無

㉑澤　宗則・南埜　猛：グローバル化にともなうインド農村の変容―バンガロール近郊農村の脱領域化と再領域化―．人文地理，58-2，1-20，2006年．査読有

〔学会発表〕（計 9 件）

①杉浦　直：サンノゼ日本町ランドマーク・プロジェクト―エスニックな場所の再構築の一例―．日本地理学会 2010 年春季学術大会エスニック地理学研究グループ集会，2010 年 3 月 28 日，法政大学（東京都千代田区）

②山下清海：池袋チャイナタウンの今日的状況．日本地理学会 2010 年春季学術大会エスニック地理学研究グループ集会，2010 年 3 月 28 日，法政大学（東京都千代田区）

③山下清海：ミャンマー（ビルマ）の人々と生活－現地調査報告－．地理空間学会第 6

回例会，2010 年 3 月 10 日，筑波大学（茨城県つくば市）
④石井久生：バスク自治州における地名変更にみるバスクの再領域化．2009 年日本地理学会秋季学術大会，2009 年 11 月 24 日，琉球大学（沖縄県中頭郡西原町）．
⑤杉浦　直：エスニックな場所の（再）構築―サンノゼ日本町の事例から―．東北地理学会秋季学術大会，2009 年 10 月 3 日，弘前大学（弘前市）
⑥大島規江：ＥＵ統合による地理教育の変容－オランダの中等教育を事例に．秋田地理学会 2009 年度大会，2009 年 9 月 26 日，秋田大学（秋田県秋田市）．
⑦加賀美雅弘：ヨーロッパ地誌学習における歴史地図帳活用の可能性．2009 年 8 月 6 日，つくば国際会議場（茨城県つくば市）
⑧加賀美雅弘：ブダペストにおけるエスニックタウンの景観の動向－ユダヤ人地区とロマ人地区の事例．日本地理教育学会大会 2008年7月21日，三重大学（三重県津市）
⑨加賀美雅弘：移動する人々と移動しない人々―ヨーロッパのエスニック集団再考，日本地理学会 2008 年春季学術大会，2008 年 3 月 30 日，獨協大学（埼玉県草加市）

〔図書〕（計 6 件）
①経済地理学会編『経済地理学の成果と課題第Ⅶ集』日本経済評論社，2010 年，384 頁．
加賀美雅弘：ヨーロッパ．199-205
②加賀美雅弘・川手圭一・久邇良子：『ヨーロッパ学への招待―地理・歴史・政治からみたヨーロッパ』学文社，2010 年，244 頁．
③山下清海編：『エスニック・ワールド－世界と日本のエスニック社会』明石書店，2008 年，260 頁
④阿部和俊編：『都市の景観地理―大陸ヨーロッパ編』古今書院，2009 年，113 頁．
加賀美雅弘：中欧都市ウィーン市街地の景観形成と再生．61-72.
⑤阿部和俊編：『都市の景観地理―大陸ヨーロッパ編』古今書院，2009 年，113 頁．
大島規江：アムステルダムの景観を歩く．34-46.
⑥高原明生・田村慶子・佐藤幸人編：『現代アジア研究　第 1 巻　越境』慶應義塾大学出版会，　2008 年，472 頁．
澤　宗則・南埜　猛：グローバル経済下の在日インド人社会における空間の再編成－脱領域化と再領域化に着目して．269-295.

〔その他〕
研究成果の一部は，以下のホームページで公開。
http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~yamakiyo/

６．研究組織

(1)研究代表者
山下　清海（YAMASHITA KIYOMI）
筑波大学・大学院生命環境科学研究科・教授
研究者番号：00166662

(2)研究分担者
飯田　耕二郎（IIDA　KOJIRO）
大阪商業大学・総合経営学部・教授
研究者番号：50278579

杉浦　直（SUGIURA　TADASHI）
岩手大学・人文社会学部・教授
研究者番号：50004495

千葉　立也（CHIBA TATSUYA）
都留文科大学・文学部・教授
研究者番号：40106737

矢ケ崎　典隆（YAGASAKA　NORITAKA）
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号：30166475

加賀美　雅弘（KAGAMI　MASAHIRO）
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号：60185709

椿　真智子（TSUBAKI　MACHIKO）
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号：80236934

澤　宗則（SAWA　MUNENORI）
神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・准教授
研究者番号：70272127

石井　久生（ISHII　HISAO）
共立女子大学・国際学部・准教授
研究者番号：70272127

大島　規江（OOSHIMA　NORIE）
国際教養大学・国際教養学部・助教
研究者番号：90420661